

令和5年度 恵那北小学校だより

6月20日号

げんきたっ子



読書の楽しみ

校長 市川 伸美

「本を開けばゆめのくに」―恵那北小学校の図書館の前を通ると、こんな言葉が目に入ります。本校では、読書をずっと宝物としてきました。

一人ひとりがタブレットを持つ時代、検索すれば、大抵のことは調べられます。また楽しい動画もたくさんあります。それでも本を開くことには、違った楽しみがあります。



本を読んでいると、その世界に入り込み、想像し、心が動きます。ときには笑い、ときには涙することもあります。登場人物の気持ちを想像しているのです。これは、相手を思いやる心にもつながります。また、日常ではなかなか体験できないことを、本を読んで疑似体験し、知識を身に付けることもできます。気になるページを何度も読み返し、確かめたり見直したりすることは、学習の上でも役立ちます。



保護者による読み聞かせ

6月は、保護者の皆さんや、やまびここども園の先生方、担任以外の学校職員など、多くの方の読み聞かせがありました。それぞれ、とっておきの一冊（2～3冊の方）を、子供の反応を楽しみながら読んでくださいました。子供たちはその世界に引き込まれ、夢中で聞きました。なつかしい本や、初めて見る本に触れることもでき、素敵な時間となりました。ご協力、ありがとうございました。

6月22日まで、学習委員会が「いろいろな分類の本を読もう」というキャンペーンを行っています。それぞれ好きな本がありますが、いつもと違う分類の本も読むことで、世界が広がります。子供たちは、さらにお気に入りの本を見つけています。

今日はどんな本を借りてくるのでしょうか。お子さんが借りて来る本を楽しみにして、話題にさせていただけると幸いです。できれば一緒に本を開き、読書の時間を楽しむことや、大好きな家族の声で読み聞かせをしていただけると、読書がもっと楽しいものになると思います。



恵那市では、毎月第3日曜日を「読書の日」としています。